



2010年6月21日

農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する
日本の業界統一 GAP

JGAP 青果物 2010 完成 一般公開開始！

日本 GAP 協会（理事長：高橋政行）は、最新版の JGAP 基準「JGAP 青果物 2010（正式名：JGAP 農場用 管理点と適合基準 青果物 2010）」の完成および一般公開の開始を下記の通り案内します。

2010年6月22日 「日本 GAP 協会 通常総会 講演会の参加者限定」 先行公開

2010年6月24日 一般向け 購入申し込み受付開始（日本 GAP 協会ホームページ上にて）

注：日本 GAP 協会会員には、無料で送付されますので、購入申し込みは不要です。

「JGAP 青果物 2010」は、青果物（野菜と果実）を生産する農場や JA などの生産部会が活用する基準であり、下記の特徴があります。

（1）農林水産省「GAPの共通基盤に関するガイドライン（4月21日発表）」に対応

本ガイドラインに対応した GAP は、JGAP 青果物 2010 が日本で最初とされています。

（2）流通 GAP や各社の取引基準との整合性

JGAP 基本項目に各社の独自項目を付け加えることで、流通企業それぞれの基準に対応できるよう開発されています。都道府県や JA の GAP でも、同じように活用できます。

JGAP2010 は、各社の GAP や取引基準の共通の土台として使われることが期待されています。

（3）JGAP 基本項目と、海外項目（GLOBALGAP 同等性項目）が分割されました

JGAP 青果物 2010 は、欧州農業を基盤とする GLOBALGAP と調和を図りつつ、その影響を最小限にし、日本の生産環境、社会環境に最も適した GAP として開発されました。結果として JGAP 青果物 2010 は、日本の農業者にとって、より取り組みやすい（＝分かりやすい）GAP になりました。

具体的には、JGAP 青果物 2010 は JGAP 基本項目と海外項目に分かれています。JGAP 基本項目は「日本の生産側と流通側の双方にとって“必要十分な GAP”」と位置付けて基準開発されています。GLOBALGAP との差異部分は海外項目として切り分けました。

JGAP 認証が必要な農場は、JGAP 基本項目に取り組みます。輸出などのために GLOBALGAP 認証（ver 3）も必要になった農場は、JGAP 基本項目に海外項目を加えて取り組みます。

----- 特定非営利活動法人（NPO 法人）日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX:03-5215-1113

NEWS RELEASE

JGAP2010 青果物は発表後に GLOBALGAP に対して同等性認証の申請をします。そのため、海外項目は暫定として発表します。同等性確立後に、正式な海外項目を発表します。

<GLOBALGAP 同等性認証 (AMC 方式) の仕組み>

	農場管理の基準		審査・認証のルール		取得できる認証(書)
審査の形式① JGAP審査認証	JGAP2010 管理点と適合基準 基本項目	+	JGAP2010 総合規則	=	JGAP認証(書)
審査の形式② JGAP+G審査認証	JGAP2010 管理点と適合基準 基本項目	+	GGAP General Regulation Version 3.1	=	JGAP+G認証(書) GGAP認証(書)

* GGAP: GLOBALGAP



JGAP 青果物 2010 による審査認証は、2010 年 7 月 1 日から開始されます。一方で、全国で現在使用されている JGAP (青果物) 第 2.1 版は引き続き使用することができます。第 2.1 版による審査・認証は 2011 年 6 月末まで継続され、その後は JGAP 青果物 2010 に一本化されます。

窓口担当者 武田／横溝 Tel 03-5215-1112 Fax 03-5215-1113

(FAX 頂ければ回答致します)

取材希望

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____